

コラム：高齢者が地域活動に参加し、活動を継続するための秘訣とは？

健康づくりや人間関係を広げるために、地域活動に参加したいと考える人は多いと思います。しかし、地域組織への参加が難しい、活動が続かないといった悩みを抱える人もいるかもしれません。そこで、多くの企業退職男性が参加し、活動を継続することに成功している地域活動の参加者にインタビュー調査を行い、参加者の意識変化と組織戦略から成功の要因を探ってみました。

今回の調査では、「男性だけの料理サークル」（同質的な参加者で構成される組織）と「誰でも参加できるウォーキングサークル」（多様な参加者で構成される組織）の2つの地域組織を取り上げました。

図1は「男だけの料理サークル」の参加者の意識変化です。これを見ると、食生活や近所づきあいに対する不安、新しい活動への模索といった決意で活動に加わり、仲間の人生に触れ、料理、人間関係や新しい挑戦について経験を積み上げることで、自分の出来ること（料理）、仲間、活動への自信といった活動に対する意義が見出され、活動継続に至ることが分かりました。こうした意識変化を組織戦略との関連でみると、(1)アクセスを容易にする戦略が気軽な参加意識の醸成に、(2)同質的な参加者による料理サークルでコミュニケーションルールを徹底したことが、活動に可能性を感じる肯定的な評価に、(3)家族や地域との交流機会の設定が、周囲の人々から良好な反応と参加者の継続意識の強化に結びついていました。

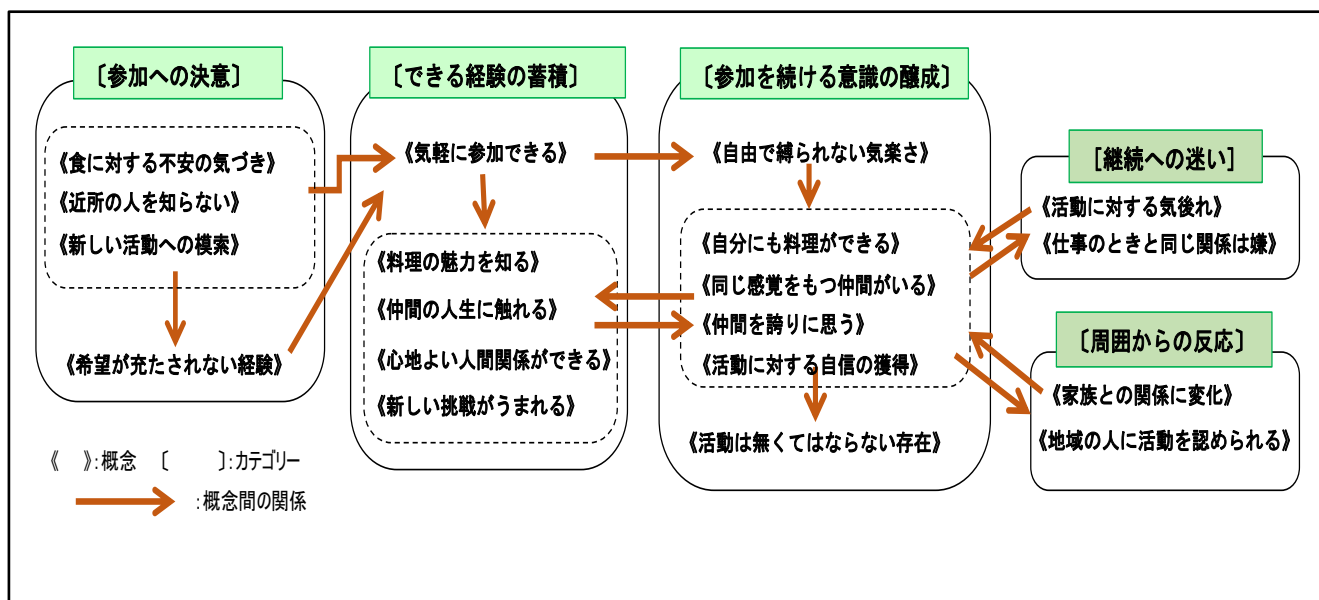


図1 「男だけの料理サークル」参加者の意識変化

図2は「誰でも参加できるウォーキングサークル」の場合です。ここでは、2つの経路がありました。1つは活動づくりの挑戦に加わることで参加動機となり、サポーターとして活動に適合する人と、もう1つは健康への興味を充たすために一般参加者として活動へ適合を図る人の意識変化のプロセスがみられました。役割に応じた適合が果たされると、人間関係の心地よさや活動の成果を実感するなど、活動への継続意識が醸成されていました。そのとき、組織戦略との関連をみると、(1)金銭的負担の除去が気軽な参加意識に、(2)仲間や地域との心理的交流の機会が人間関係の心地よさに、(3)活動内容の意味づけが充実感につながっていました。

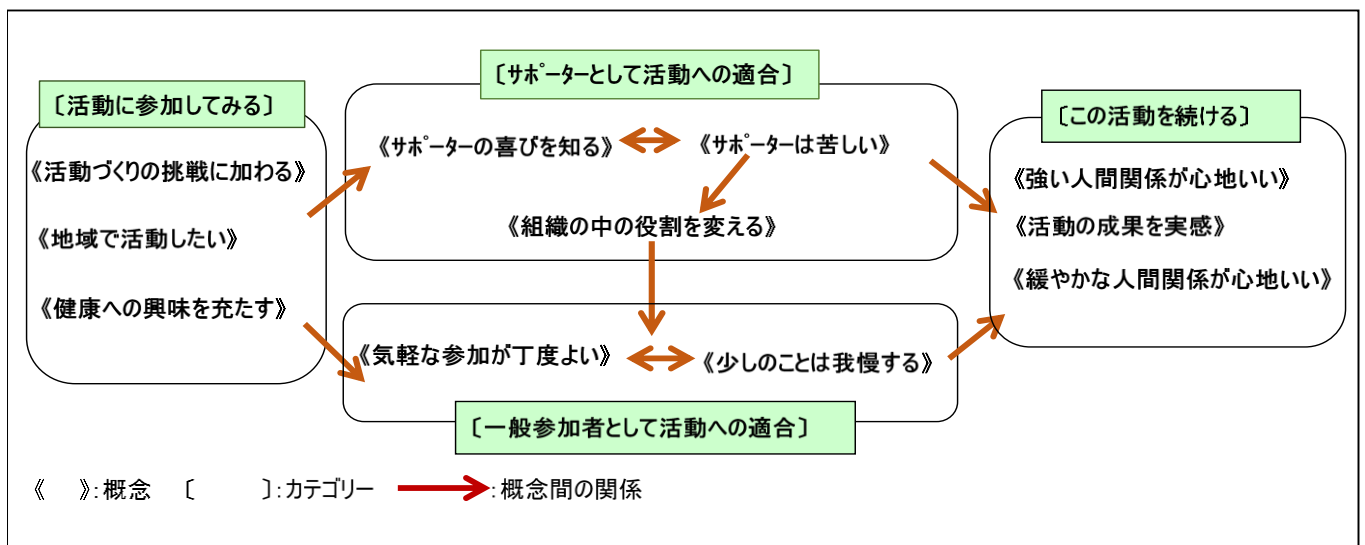


図2 「誰でも参加できるウォーキングサークル」参加者の意識変化

2つの地域活動の事例から、参加への負担感の軽減や地域の人々との交流が、高齢者の参加意識を後押しし、継続意識を醸成する可能性が示されました。高齢者が地域活動へ参加し、活動を継続するためには、組織戦略が重要であることを改めて確認することができました。

出典：

柳沢志津子・杉澤秀博（2015）「企業退職男性高齢者における地域社会活動への参加継続プロセスに関する検討：料理サークルを事例とする組織の戦略と参加メンバーの相互の視点から」『老年学雑誌』5: 73-90.

柳沢志津子・杉澤秀博（2016）「多様な参加者で構成される趣味活動への企業退職男性高齢者の参加と継続：組織戦略と参加メンバーの相互の視点から」『老年学雑誌』6: 39-55.